

-----  
[ 成果情報名 ] 早熟栽培におけるパプリカの接ぎ木栽培の適応性と台木の選定

[ 要約 ] パプリカの早熟栽培において「フィエスタ」の台木としては青枯れ病、立枯れ性疫病に耐病性を持つ「スケットC」、青枯れ病に耐病性を持つ「伏見甘長」および「スケットK」がよい。「スペシャル」の台木は立枯れ疫病に耐病性を持つ「伏見甘長」がよい。

[ 担当部署 ] 野菜栽培部・野菜栽培チーム

[ キーワード ] パプリカ、早熟栽培、台木、耐病性、「フィエスタ」、「スケットC」、「伏見甘長」、「スケットK」、「スペシャル」

[ 連絡先 ] 092-922-4364

[ 対象作目 ] 野菜

[ 専門項目 ] 品種選定

[ 成果分類 ] 品種選定  
-----

[ 背景・ねらい ]

最近、食の多様化に伴いサラダ食材等の彩り野菜として赤色や黄色系パプリカの需要が増加しているが、これらは主にオランダや韓国で促成作型の養液栽培において生産されている。パプリカを収益性の高い水田転換作物として本県の平坦地水田に導入するためには、土耕による低コストな早熟栽培技術の確立が求められており、早熟栽培に適した品種「フィエスタ」(黄色)、「スペシャル」(赤色)を選定した(平成15年度農業関係試験研究の成果)。

しかし、土耕による早熟栽培では、青枯れ病や立枯れ性疫病などの土壌病害が問題となるので、これらに耐病性を持つトウガラシ属の台木の中から、パプリカの早熟栽培に最適な台木を選定し接ぎ木栽培を確立する。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 「フィエスタ」の台木に青枯れ病、立枯れ性疫病に耐病性を持つ「スケットC」、青枯れ病に耐病性を持つ「スケットK」および「伏見甘長」を用いると、自根に比べて着果数が増加し、商品果重、A品重が重くなる。(表1、図1)。
2. 「フィエスタ」の台木に「スケットK」を用いると、「スケットC」、「伏見甘長」に比べて凹凸果やひび果の発生が多く、A品率が低下するが、商品果重は重い(表1、図1)。
3. 「スペシャル」の台木に「伏見甘長」を用いると、自根に比べて1果重が増加し、商品果重、A品重がやや重くなる。「スケットK」では商品果重が5%、「スケットC」では15%程度減少する(表1、図2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1. 台木の土壌病害耐病性については(独)野菜茶業研究所の成果(表1)を参考に青枯れ病や立枯れ性疫病の発生に応じて台木を選定する。
2. 土壌水分は乾燥しすぎると尻腐れの発生が多くなり、夏季に過湿になりすぎると青枯れ病、立枯れ性疫病の発生を助長するのでpF2.0~1.8で推移するようにかん水管理に気を付ける。
3. 夏季の高温は着果不良を引き起こすとともに地温を上昇させ土壌病害が発生しやすくなるので、フルオープンハウスを利用したり遮熱資材を被覆してハウス内の昇温抑制に努める。

[ 具体的データ ]

表1 台木の種類と収量

NO	穂木	台木	土壌病害耐病性		A品重 kg/a	商品 果重 kg/a	総 収量 kg/a	着果数 個/株	1果重 g	A 品率 %	不良果発生割合	
			青枯れ病	疫病							凹凸果	びび果
1		自根	×	×	788	1032	1094	21.6	122	70	15	14
2	フィエスタ	スケットC	○	○	1015	1244	1297	24.4	127	76	10	8
3		スケットK	○	×	998	1310	1375	26.8	123	71	19	16
4		伏見甘長	○	×	1011	1222	1287	23.9	129	77	13	10
5		自根	×	×	909	1014	1051	19.4	130	85	10	1
6	スペシャル	スケットC	○	○	723	864	908	15.8	138	77	15	4
7		スケットK	○	×	823	956	988	17.1	139	81	11	1
8		伏見甘長	○	×	911	1065	1107	18.5	144	78	15	2

- 注)1.土壌病害抵抗性は(独)野菜茶業研究所成績により ○は耐病性有り、×は耐病性なし。  
 2.播種：2月8日、定植：4月16日 3.仕立て方法 V字主枝2本仕立1条植え  
 4.栽植密度 417株/a(畝間120cm、株間20cm) 5.疫病は立枯れ性疫病。  
 6.フルオープンビニールハウス(間口6m、奥行き15m、軒高1.5m)を用い、夏期30  
 以上で天井を解放)  
 7.試験圃場は青枯れ、立枯れ性疫病の発生は無。

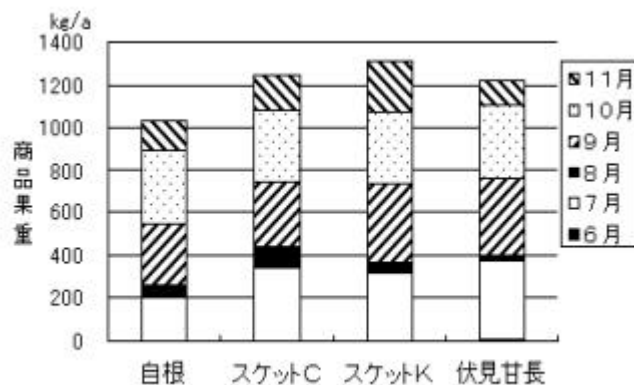


図1 台木の種類と月別商品果重(穂木:フィエスタ)

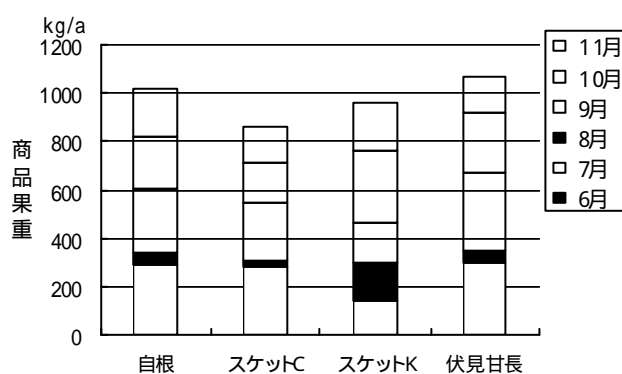


図2 台木の種類と月別商品果重(穂木:スペシャル)

[ その他 ]

研究課題名：早熟栽培におけるパプリカの高品質安定生産技術の確立  
 予算区分：国庫助成(先端技術等新技術実用化)  
 研究期間：平成15年度(平成13~15年)  
 研究担当者：井上恵子、柴戸靖志、古賀武  
 発表論文等：九州農業研究65：178